

公明党の自立路線時代(14)

平野 貞夫
元参議院議員

今年には賀状をやめ「寒中見舞い」で、最近の心境を友人たちに伝えた。

師走に この世に残したい執筆を思いつき、賀状を欠礼しました。「なぜ、日本では健全な政権交代が定着しないのか」。土佐自由民権論者は当初から「政権交代政治」を要請していました。2024年は、民権議院開設白書提出150周年です。

わが国が議会政治を導入して132年となるが、「健全な政権交代政治」が定着しない理由を総合的に検証するのが、86年もの命をいただいている私の義務だ。政権交代が定着しない理由はいろいろあるが、特筆すべきことは「創価学会と公明党」の存在である。私の検証作業は、この問題がテーマでもある。

宗教団体の理念を政治団体が、実現するために政治

活動を合法的に行うことは、一般論としては違憲とは言えない。しかし、公明党と創価学会の関係は一般論では収まらない問題がある。それは創価学会の「平和と福祉の増進」という理念を、政治で実現するために公明党という政党を活用するという範囲で行われるべきだ。

それが宗教団体から生じるさまざまな問題や事件を、有利に処理するため政治を利用することになれば、事によつては憲法問題となる。さらに宗教団体の理念と真逆な政策や政治活動を政党が行うことになる、これは国家・社会の破滅になりかねない。

昭和時代が終わる1988年12月末、「消費税制度導入」という戦後税制の大改革は、当時としては「福祉の充実」という意味でそれなりの大義名分があった。

その後、政治の劣化で消費税制度の改悪が続き、福祉の劣化をもたらしたことは、公明党の責任でもある。

「消費税国会」が終わるのを待っていたのは「政治改革」である。この時期、公明党は問題を抱えていたが、自社55年体制から自立して「平和と福祉」を目指そうとしていた。創価学会の中でも真剣にそれを志向していた人たちがいた。

リクルート問題と竹下首相の退行現象

1988(昭和63)年11月25日、竹下登首相は自民党選挙制度調査会の後藤田正晴会長を官邸に招き、政治改革に取り組む決意を表明。リクルート疑惑で広がった国民の政治不信を取り除くためであった。前日の34日間の国会会期再延長で、消費税関連法案の成立に見通しが立ったからであった。

後藤田会長は、政治資金・選挙制度・国会改革等について、具体的提言をつくるようになる。12月24日には消費税関連法が参院で成立。27日には内閣改造を行った竹下首相は、国民から強い要請がある「政治改革」に取り組み決意を表明。

竹下政権は順風満帆と長期政権に向かったかに見える

て、12月28日消費税国会といわれる第113回臨時国会は閉幕した。ところが12月30日、第114回通常国会が召集され、就任したばかりの長谷川峻法務大臣がリクルート社から政治献金を受けていたことが発覚。政治的・道義的責任をとって辞任することとなる。嫌な風向きになってきた。

年が明け、1989(昭和64)年1月7日、昭和天皇が崩御され激動の昭和時代は終わった。皇太子が皇位を継承し、1月7日元号法により「平成」と改まり、翌8日から施行した。

「大喪の礼」の準備で慌ただしい中、1月25日、原田憲経済企画庁長官がリクルート社から政治献金を受けていたことが分かり辞任した。竹下政権が苦境を増した2月2日、公明党の権藤恒男衆院議員と二見伸明副書記長から「通常国会の展開を聞きたい」とのこと。指定の場所に行く朝日新聞の1記者がいた。

○二見 衆院で総予算を通して参院で審議中に衆院が解散になったら、総予算どうなる。

○平野 総予算は廃案となり、参院の緊急集会で暫定予算を決めます。

○二見 国会が再開されたらどんな展開か。

○平野 2月16日頃から衆院予算委員会の総括質疑が始まるが見通しがつきません。社会党が「リクルート疑惑解明」で、どうするかだ。

○二見 社会党も厳しく出るし、公明もだ。

○平野 竹下政権とすれば、大喪までに総括を終え、3月中に衆院で総予算を通し、暫定予算を1カ月とすれば大成功ですよ。

○権藤 予算の総括で審議をストップさせるにどんな方法があるのか。

○平野 それは野党の考えること。

○権藤 そういわず何か言ってくれ。

○平野 政府に国民受けする要求をつきつけ、それに応じないと審議を止めるということ。

○二見 リクルートの捜査はどうなる。

○I記者 情報をまとめると、検察は本気だ。2月9日頃、労働省ルートで江副らを逮捕。江副の拘留期限3月に入って、NTTの強制捜査。ねらいは中曽根さん。前首相を問題にする基準は10億円以上の違法な金。リクルートと民活を合わせると10億円は超えたとの情報がある。捜査は限りなく中曽根さんの身辺に近くなっている。

か。

○平野 政治改革を本気にやるでしょうか。

深刻化する矢野委員長問題

第114回通常国会は、1989（平成元）年2月10日に自然休会開けとなり、開会式、施政方針演説などが行われた。同月19日は日曜日だったが、午前10時半、自宅に権藤議員から電話がある。

○権藤 昨夜、大久保書記長からの電話で、今夜、創価学会の首脳と公明党首脳の会談を極秘にやる。矢野体制でしのげるかの相談だ。何か意見を。

○平野 私が関わることはない。権藤先生が意見があればそれへの感想なら……。

○権藤 分かった。とにかく選挙の現場では矢野委員長の評判が悪くて、出てくるなどタコつば状態だ。民社の塚本委員長もリクルートがらみで2月の党大会に立候補しないらしい。例の明電工がらみの2億円は、秘書の金だという話はウソだとわかった。これが公明の秘書連中に知れ、矢野委員長のやり方に批判が強くなった。

○平野 矢野委員長自身はどうなんですか。

中曽根側は竹下政権が検察を抑えないことに、不満を持つているとの話も出ている。党内的にも波風が出ようし、まして社・共は竹下政権に最大の抵抗をするよ。

○二見 公明だって民社だって、今度は簡単に説得に感じないよ。

○権藤 どうして竹下政権はこんなに急速に不安定になったのか、分析してくれよ。

○平野 今夜は名古屋コーチンという珍しいごちそうになったので、分析しましょう。

竹下さんは中曽根さんから政権を継いで「税制改革」をやり遂げることに政治生命を賭けた。こんな時には人間の「無意識」から「意識」に、どんどんエネルギーが流れる。

それが成功すると「無意識」はホッとする。「意識」へのエネルギーが止まる。「心理的退行現象」というものです。大きな政治的出来事には必ず出てきます。佐藤政権の初期にもありました。日韓問題を解決して自民党内がホッとした後、黒い霧国会という退行現象が起こるんですよ。それを社会開発とか沖繩返還で立ち直すことができた。

○権藤 なるほど、それで政治改革としきりに言うの

○権藤 しがみついているよ。

○平野 権藤先生の気持ちはわかりますが、辞めさせる時期が問題ですよ。総予算が成立した後はどうですか。

○権藤 4月末になるだろう。もたないよ。

○平野 どんなに早くても、総予算が衆院を通過してからでないかと竹下政権に影響が出ますよ。いま言われていることは政治責任でしょう。党の要職にある人たちがドミノ式に責任を、という流れになりますよ。

○権藤 今夜の話ですべてが決まるとは思わないが、基本的な方向を出したいということらしい。

○平野 どんなメンバーが集まるんですか。

○権藤 学会は秋谷会長と副会長の一部、党は大久保書記長と、他は知らない。

○平野 後の体制はどうするんですか。

○権藤 大久保を委員長にして、市川を書記長で取り込み、国対委員長は二見と思う。

翌日、衆院予算委員会はリクルート集中審議。中曽根前首相のスパコン疑惑。竹下首相の青木問題も深刻。23日朝日のI記者から「リクルート文部省ルート」で、公明党の池田克也衆院議員への疑惑があり、東京地検特捜部が捜査を始めたとの情報が入る。（続く）